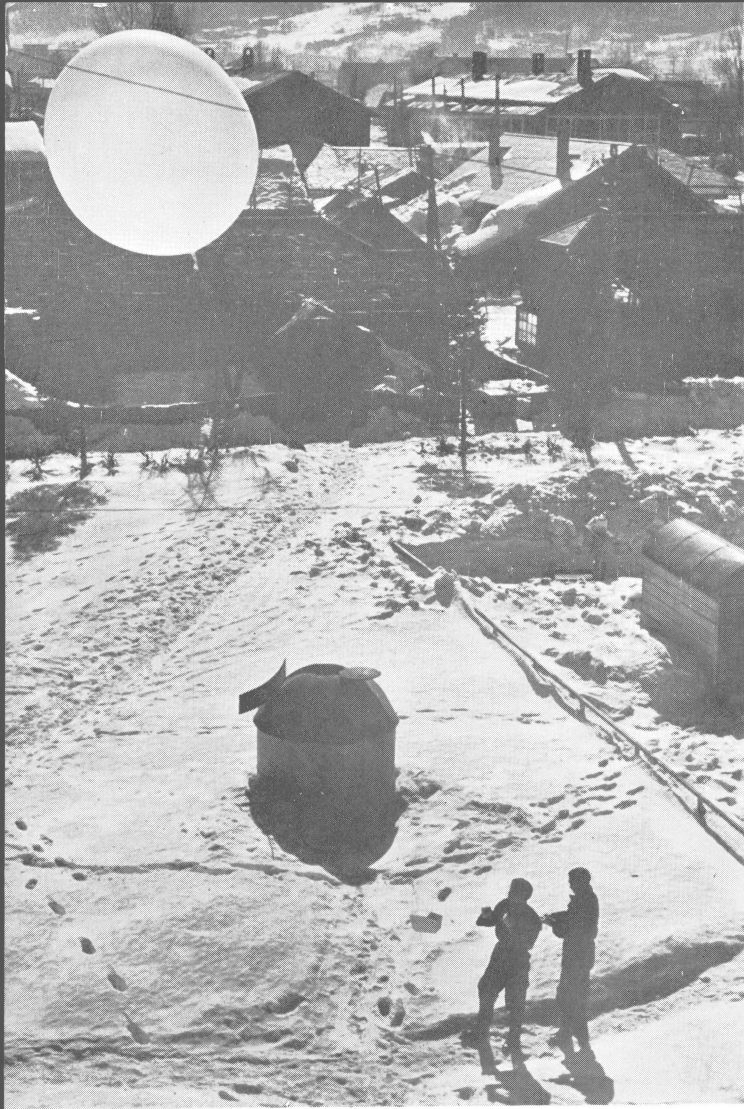




札幌の冬

佐々木三郎

忍耐の生活、自然現象に一応人間が雄伏し耐え忍んでいるのが冬の札幌の姿、樹々もすっかり葉を落し幹も枝も煤煙で黒ずみ、新緑など思いもよらず白と灰色と黒と、あらゆるものが沈滞そのもの。厚い積乱雲におおいかぶされ降りしきる雪の中を人間も厚い防寒衣に、目だけ出した防寒帽、足取りも重く一切が鈍重に動く。自然の完ぺきな支配下にあると見られよう。

北海道や樺太には越年の野火というものがある。秋に燃え出した泥炭地の火が冬中地下に余じんを保ち、春先に又燃え上ってくるそれをいうのである。雪は地面をおおい自然景観を一変するが、又地面の過度の冷却を防ぐ、浸潤する水と自然の冷却、これに耐えて火は雪の下に残る。そうして春先き雪が消えて温度が昇り、乾いた風が吹きはじめると猛然と燃えはじめる。たいていの人はその潜勢力に驚くに違いない。

人間は野火より強い。寒さにも吹雪にも決して負けていない。雪におおわれて一見それと判らないだけである。われわれの周囲を見よう。拂つても除けても雪は降り積る。沙漠の漂砂のように粉雪は移流する。通路を作ればたちまち粉雪がこれを埋める。雪の少ない地方を基準に施設されている測器は雪の中に没してしまふ。器械の金属部分に触れればたちまち手の皮をむいてしまふ。冬の観測は極寒との戦いである。

高層の気温はどれも大差ないかも知れない。しかし下界は違う。高層観測も下界で行うのだ。以上の障害の外に暖地製気球の寒冷地輸送、低温時のガス充填による変質など、問題は多く存在する。われわれはこの自然の

猛威に対抗、しかし冷静に観察している。積雪のボーリング、密度測定、内部の粒子の微変化、遠心分離による含水測定、色素浸潤による融雪水の浸透、地下埋設自記雨量計での融雪水の実測など。それに雪面の変転浸蝕状態など、確実に事象をとらえていつている。春先きの融雪水の利用、雪面交通の確保など雪日の生活に既にこれらが役立って来ている。より快的な冬を過すことが出来る日の近いことをわれわれは信じている。(札幌管区気象台)

— < 目 次 > —

表紙写真 富士山の雪崩	毎日新聞社提供	表紙
口 絵 札幌の冬	佐々木三郎	表紙 2
台風シンポジウム公開講演会	昌 山 久 尙	1
台風と人間の戦い	R. H. シンプソン	2
完全なハリケン	レオン・シャーマン	4
台風のよりよき理解のための上層気流の研究の重要性	K. R. ラマナサン	5
ラジオアイソトプによる積雪量の測定	大 沼 匡 之	6
台風15号による送電線の塩害と窓ガラスに付着した塩の結晶	黒 岩 大 助	10
トータライザーの実験観測	喜 多 村 一 男	12
ふぶきによる電線着雪	波 多 正 二	15
霧島山(大浪池)の霧水	森 茂 善	17
レプリカによる降雪の観測について	小 林 禎 作	19
山岳雪崩遭難とその対策	大 井 正 一	22
ソヴェートの科学機関(II)	当 舍 万 壽 夫	26
書評: 気象と天災、雨を降らせる話、スキー教室		表紙 3